
METAL RECYCLE BUSINESS COMPANY



2009年度環境活動レポート

(2009年 10月～2010年 9月)

公開日: 2010年11月10日
改訂日: 2011年7月7日

《有限会社 金田商事 環境方針》

□ごあいさつ

「人と資源のストーリーを見つめ続け、
新たな価値の創造を通して、社会に貢献する。」
まずは、身近な金属から。

弊社は、「資源の掘り起こし・再発見」を推し進め、微力ながら循環型社会形成の一助となることで、社業も発展させていくことを目標としております。
そのために、社員一丸となって粛々と事業を行なっております。

有限会社 金田商事

取締役社長

金田 大地

<環境理念>

弊社は、再資源化が可能である金属屑の売買とそれに付帯する業務を主要事業としており、まさにリサイクルフローの一端を担う企業としての責任から、すべての事業活動において発生する廃棄物の有価物化および再エネルギー化の方法を探索・実行し、それと併せて省エネルギー化・省資源化・省力化を推し進め、経済性と環境負荷低減の効果を相乗で高める努力を自主的かつ継続的に行ないます。

人類を含む地球上の生物にとって、共通の財産である環境を保全・改善しつつも、持続可能な発展を遂げるため、ここに弊社の環境方針を定めます。

<環境保全への行動指針>

1. 次の事項について環境目標・活動計画を定め、継続的な改善に努めます。

- ①二酸化炭素(CO2)の排出量削減。
- ②一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量削減。
- ③節水による水資源使用量の削減。
- ④社会全体の有価物及び産業廃棄物の適正処理を推進するため、取扱量の増加を目指す。
- ⑤グリーン購入の推進。
- ⑥地域貢献活動の実施。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

3. 環境への取り組みを環境活動レポートとして、取りまとめ公表します。

制定日：2009年11月1日

改訂日：2011年07月07日

取締役社長

□登録事業所の概要

(1) 事業所名及び代表者名

有限会社 金田商事
取締役社長 金田 大地

(2) 所在地

本社:兵庫県伊丹市口酒井2丁目7番21号
本社工場: 同上

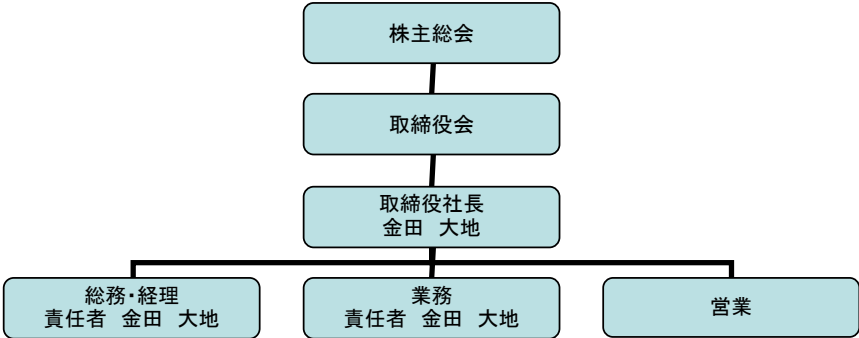
(3) 設立年月

平成17年10月3日

(4) 資本金

金300万円

(5) 有限会社 金田商事 経営組織図



前会社法の定める有限会社となっております。

- ・株主 1名。
- ・取締役(役員) 1名
- ・監査役の選出義務なし。

小規模企業のため、部・課・部門 等の設置は行なっていません。

総務・経理	労務・財務・金銭管理に関する業務を行なっております。
業務	商材である金属スクラップ・産業廃棄物の取引全般に関する業務を行なっております。
営業	売上・仕入顧客管理に関する業務を行なっております。

(6) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役社長 金田 大地 TEL:072-785-1708
担当者 同上

(7) 事業内容(認証・登録の範囲)

- ・金属くず商
- ・産業廃棄物収集運搬業
- ・古物商
- ・その他前出に付帯する事業

(8) 事業の規模

総売上高 2.86億円 (2009年度)
主要商品取り扱い量 7,120トン (2009年度)

活動規模	単位	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
取り扱い数量	t	8,190	8,018	6,198	7,120
内訳: 金属スクラップ	t	8,180	8,007	6,184	7,108
内訳: 産業廃棄物 (収集運搬)	t	10	11	14	12
産業廃棄物(収集運搬)	m ³	0	0	0	0
売上高(税抜)	百万円	332	477	172	286
従業員	人	3.0	3.0	3.0	4.0
床面積	m ²	580	580	580	580
保有貨物車両台数 (期末時点)	台	3	3	3	3
保有乗用車両台数 (期末時点)	台	2	2	2	2
保有荷役車両台数 (期末時点)	台	3	3	3	3

(9) 関連諸許可

金属くず商(兵庫県公安委員会 許可 第1370500002号)

金属くずの回収、収集・運搬、選別、売買。

古物商(兵庫県公安委員会 許可 第631370600038号)

古物の売買。

◆主たる区分:事務機器類

◆扱い品目:自動車・自動二輪、及び原付・事務機器類・機械工具・道具類

産業廃棄物 収集運搬業

1.)大阪府許可番号 2700132377号

許可の年月日:平成19年1月22日

許可の有効年月日:平成24年1月21日

1.事業の範囲

事業の区分:積替え・保管を含まない

産業廃棄物の種類:

1.廃プラスチック類 2.金属くず 3.ガラスくず(※)(石綿含有産業廃棄物を含む。)

以上3種類

(※)「ガラスくず」とは「ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)&陶磁器くず」のことです。

2.許可の条件 無

3.許可の更新又は変更の状況

平成19年1月22日当初許可

4.規則第9条の2第5項の規定による許可証の提出の有無 無

2.)大阪市許可番号 6600132377号

許可の年月日:平成19年1月29日

許可の有効年月日:平成24年1月28日

1.事業の範囲

事業の区分:積替え・保管を含まない

産業廃棄物の種類:

1.廃プラスチック類 2.ゴムくず 3.金属くず 4.ガラスくず(石綿含有産業廃棄物を除く)

以上4種類

2.許可の条件 無

3.許可の更新又は変更の状況

平成19年1月29日当初許可

4.規則第9条の2第5項の規定による許可証の提出の有無 無

(10) 施設の状態

保有設備

運搬車両	台数
10t積み平ボディー車	1
7t積み平ボディー車	1
4t積みユニック搭載平ボディー車	1
荷役車両	
2.5t揚力フォークリフト	3

※取引先構内車を含む。

(11) 処理実績

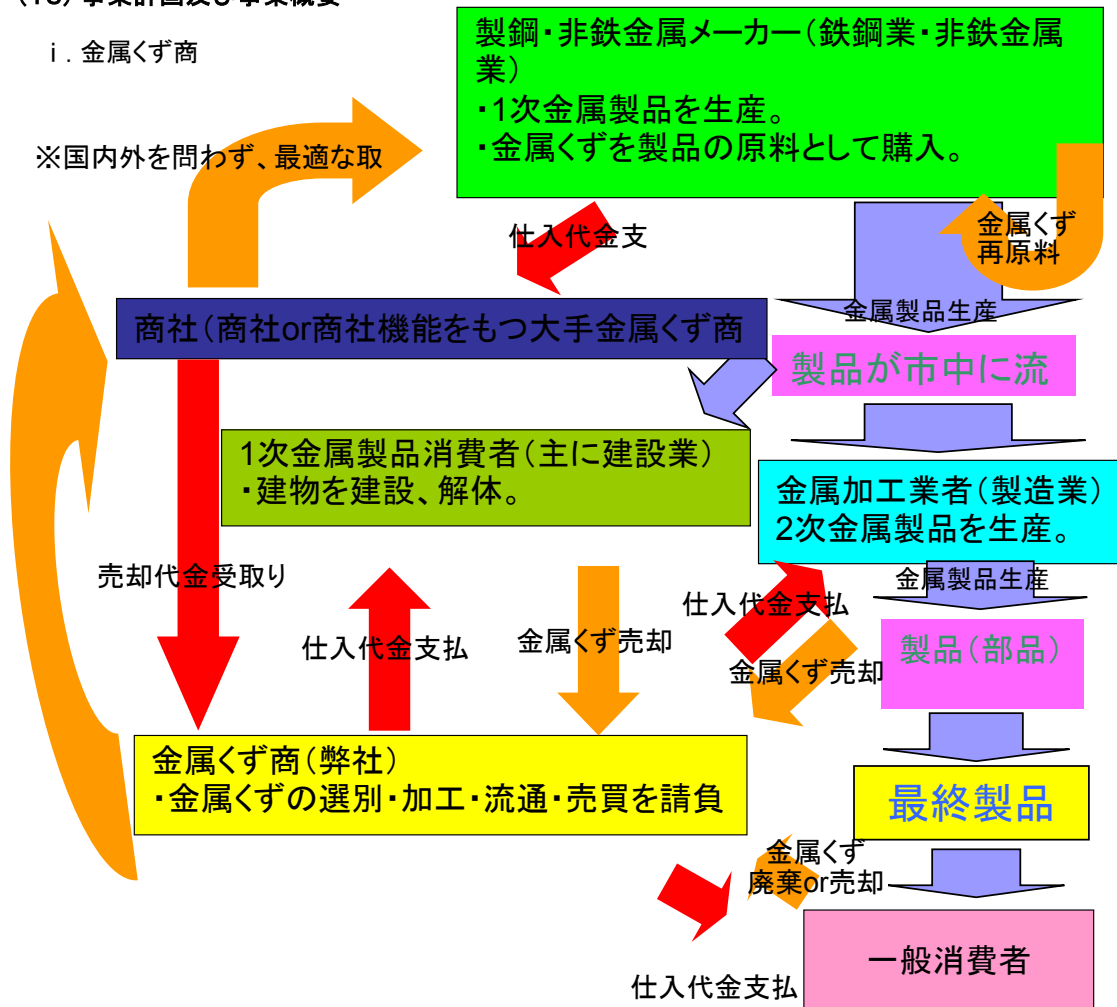
産業廃棄物(収集運搬)	単位	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
廃プラスチック	t	10	11	14	12
合計	t	10	11	14	12

(12) 廃棄物処理料金

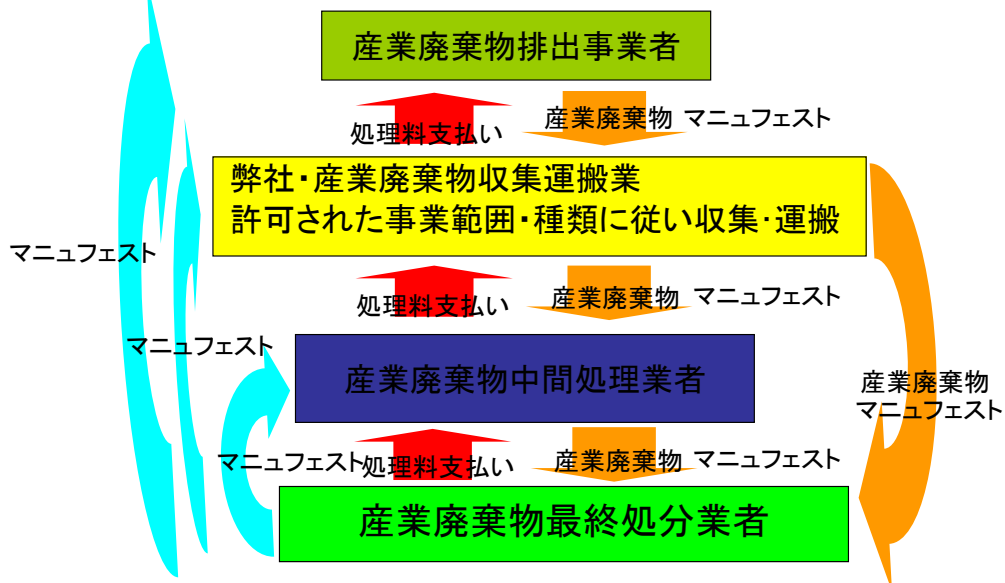
取引形態により、各々の見積書並びに契約書により、決定、明示いたします。

(13) 事業計画及び事業概要

i. 金属くず商



ii. 産業廃棄物収集運搬



(14) 事業年度 10月～9月

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2006年	2007年 (基準年度)	2008年	2009年	2010年
二酸化炭素排出量 (対象:エネルギー総量)	kg-CO ₂ /年	49,142.73	56,216.49	47,249.23	48,375.70	29,831.06
廃棄物排出量	kg/年	記録なし	1,620.00	3,580.00	3,260.00	3,840.00
一般廃棄物量排出量	kg/年	記録なし	170.00	2,110.00	920.00	620.00
産業廃棄物排出量	kg/年	記録なし	1,450.00	1,470.00	2,340.00	3,220.00
総排水量	m ³ /年	26.00	24.00	30.00	32.00	23.00
受託した産業廃棄物の 処理量	トン/年	10.21	11.43	14.13	12.13	4.95

□環境目標及びその実績

・環境負荷削減目標

項 目	年 度	2007年	2009年		2010年	2011年
		(基準年度)	(目標) 基準 年度比99%	(実績)	(目標)基準 年度比98%	(目標)基準 年度比97%
電力の二酸化炭素排出 量削減	kg-CO ₂	2,632.39	2,606.07	4,197.31	2,579.74	2,553.42
軽油の二酸化炭素排出 量削減	kg-CO ₂	43,236.03	42,803.67	35,906.82	42,371.31	41,938.95
ガソリンの二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	4,900.91	4,851.90	3,275.05	4,802.89	4,753.88
灯油の二酸化炭素排出 量削減	kg-CO ₂	358.84	355.25	448.55	351.66	348.07
LPGの二酸化炭素排 出量削減(基準年度を通期 使用実績のある2008年度に変 更)	kg-CO ₂	5,088.32	5,037.44	4,547.97	4,986.56	4,935.67
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	56,216.49	55,654.32	48,375.70	55,092.16	54,529.99
一般廃棄物の削減	(kg/年)	170.00	168.30	920.00	166.60	164.90
産業廃棄物の削減	(kg/年)	1,450.00	1,435.50	2,340.00	1,421.00	1,406.50
節水	(m ³ /年)	24.00	23.76	32.00	23.52	23.28

・取り扱い数量目標

年 度 項 目		2007年	2009年		2010年	2011年
		(基準年度)	(目標) 基準 年度比105%	(実績)	(目標)基準 年度比110%	(目標)基準 年度比115%
金属屑(有価物)の取扱 量(本年度目標:基準年 度比105%)	トン/年	8,007.41	8,407.78	7,108.08	8,808.15	9,208.52
受託した産業廃棄物の 処理量(許可区分:収集 運搬のみ)本年度目標: 基準年度比105%	トン/年	11.43	12.00	12.13	12.57	13.14

・グリーン購入の推進 ※過去年度において記録が無いため、本年の実績調査・活動から開始

年 度 項 目		2009年
		実績
グリーン購入の推進 単位:品数・点数	品数・点数 /年	5

・地域貢献活動 ※過去年度において記録が無いため、本年の実績調査・活動から開始

年 度 項 目		2009年
		実績
弊社周辺の環境美化と 付近住民様の環境意識 上 ①清掃活動	単位:回/ 年	1
清掃活動…空き缶・ペッ トボトル拾い	単位:本/ 年	19
②周辺住民の方々から の金属くず買い受け。	単位:kg/ 年	1,745.70

□環境活動の取り組み計画と評価

取り組み計画	達成状況		単位	評価(結果と今後の方向)
電力の二酸化炭素排出量削減 ・冷暖房の控えめな使用 (冷房28℃ 暖房20℃) ・クールビズ・ウォームビズ運動 ・照明・事務機器等の不使用時の電力削減。	基準年度	2,632.39	kg-CO2	目標未達成
	目標	2,606.07	kg-CO2	冷暖房の設定温度は、冷房28℃暖房20℃としているが、今夏は猛暑だったので、時として、冷房を26℃まで下げた。基準年度に比べ、事務作業等が増え、就業時間の長時間化により、Co2排出量が目標値の1.6倍に増大。全12ヶ月間、月次、累計目標を達成することが1度と無く、最悪の結果となった。是正策として、福利厚生目的の自販機は、1機の契約解除・撤去(翌年度11月)を決定し、かわりに冷蔵庫を事務所内に設置。(8月下旬) 今後、照明のon/offスイッチを増設と1階照明器具を現状より、省エネタイプに替えることを決定。
	実績	4,197.31		
	削減量	-1,591.24	kg-CO2	
	目標対実績比率	1.61		
軽油の二酸化炭素排出量削減 エコドライブ運動展開 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・冷房の控えめ使用 ・買換え時は燃費マークを優先する ・車両整備・点検の実施	基準年度	43,236.03	kg-CO2	目標達成
	目標	42,803.67	kg-CO2	エコドライブの定着、低燃費車への乗り換えによって、16%減の目標達成となった。しかし、商品の取扱量も基準年度実績を11.0%下回っており、事業活動の低迷によっての不本意な目標達成ともいえる。 今後、燃費の管理について、個別評価を採用・検討する必要がある。
	実績	35,906.82	kg-CO2	
	削減量	6,896.84	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.84		
ガソリンの二酸化炭素排出量削減 エコドライブ運動展開 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・冷房の控えめ使用 ・買換え時は燃費マークを優先する ・車両整備・点検の実施	基準年度	4,900.91	kg-CO2	目標大幅達成
	目標	4,851.90	kg-CO2	エコドライブの定着、低燃費車への乗り換えによって、32%減の大幅目標達成となった。主に使用する営業車を普通乗用車から、軽自動車へ切り替えたことも好成績につながった。しかし、商品の取扱量も基準年度実績を11.0%下回っており、事業活動の低迷によっての不本意な目標達成ともいえる。 今後、燃費の管理について、個別評価を採用・検討する必要がある。
	実績	3,275.05	kg-CO2	
	削減量	1,576.85	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.68		
灯油の二酸化炭素排出量削減 ・暖房の控えめな使用 エアコンを併用 暖気循環 設定温度18℃(暖房20℃以下) ・ウォームビズ運動	基準年度	358.84	kg-CO2	目標未達成
	目標	355.25	kg-CO2	営業・就労時間の延長、パート雇い入れに伴い、使用量が増加。目標値の1.26倍の排出量。結果、未達成となった。 寒冷期には、冷気を遮断する断熱シートの使用も検討。
	実績	448.55	kg-CO2	
	削減量	-93.30	kg-CO2	
	目標対実績比率	1.26		
LPGの二酸化炭素排出量削減 (基準年度を通期使用実績のある2008年度に変更) エコドライブ運動展開 ・アイドリングストップ ・急加速の抑制 ・車両整備・点検の実施	基準年度	5,088.32	kg-CO2	目標達成
	目標	5,037.44	kg-CO2	基準年度を通期使用実績のある2008年度に変更。それに基づいた目標を設定。フォークリフトのエコドライブ・エコ操作を心がけた結果、目標値より、10.0%の削減が出来た。 軽油ディーゼルエンジン搭載のフォークリフトが2両あるので、エネルギー効率の良いLPG車に乗り替えることも検討。しかし、新車両購入や燃費コストを考えると、かなり先の話となりそう。
	実績	4,547.97	kg-CO2	
	削減量	489.47	kg-CO2	
	目標対実績比率	0.90		

一般廃棄物の削減 ※基準年度10月～2月は、一般廃棄物の発生が無かったの で、評価は、1面的です。	基準年度	170.00	kg	目標未達成
	目標	168.30	kg	両面印刷、裏紙の使用は、定着しつつある。仕入顧客による商品持ち込み時に、ダンボール梱包での取引があり、増加傾向。しかし、汚れの少ない紙類に関しては、すべて古紙リサイクルへまわしている。
	実績	920.00	kg	
	削減量	-751.70	kg	分別ボックスを設置し、資源ごみを有効かつ適正に処理する一般廃棄物処理業者を選定する。
	目標対実績比率	5.47		受信したFAXデータを一旦HDに保存する仕組みを取り入れ、プリントアウトする紙枚を削減。裏紙、両面印刷率が向上。
産業廃棄物の削減	基準年度	1,450.00	kg	目標未達成
	目標	1,435.50		選別を要する商品の取り扱いも増え、それに伴い残渣が増加発生。廃プラは、有価物化の可能性もあるが、分別能力・保管場所が無く、現状、RPF(固形燃料)に加工している産業廃棄物へ産廃として処分を委託している。今後検討する必要がある。
	実績	2,340.00	kg	
	削減量	-904.50	kg	そのままでは、廃棄物となる物品を有価物として買取、選別することにより、再資源化し商品として売買していることは、評価できる。より一層の有価物化を推進する必要がある。
	目標対実績比率	1.63		選別ダスト産廃と自社発生 of 産廃を分けて管理する必要がある。
節水	基準年度	24.00	m ³	目標未達成
	目標	23.76	m ³	節水の呼びかけは、行なっているが、営業・就労時間の延長、パート雇入れに伴い、使用量が増加。結果、未達成となった。
	実績	32.00	m ³	
	削減量	-8.24	kg	基準年度の使用量が、極端に少ないとも言え、今後は、保有車両(洗車)、従業員数の原単位で見る必要があるかもしれない。
	目標対実績比率	1.35		増加要因である従業員数を基に考えると、基準年度実績24m ³ 、3名で=8m ³ /人、本年度で32m ³ 、4名=8m ³ /人となり、従業員1名当たりの年間使用量が8m ³ 程度であることが判明した。これを大幅に超えないように今後管理していくことに重きを置くようにした。

取り組み計画	達成状況		単位	評価(結果と今後の方向)
有価物の取り扱い量増加 ・新規顧客開拓 ・既存顧客への新提案 ・価格競争力の強化 ・情報収集の強化	基準年度	8,007.41	t (トン)	目標未達成
	目標	8,407.78	t (トン)	新規仕入顧客数は伸びているが、リピーター率の低さと主要取引先の発生量減少により、目標を達成できなかった。通期で目標値を平均15%超下回っており、現状の設備、従業員数では、目標達成がかなり難しいことを痛感した。 一層の顧客掘り起こしと、提案力・価格競争力の強化で、取り扱い数量を伸ばす。絶対値としての環境負荷が増すことになるが、目標達成には、設備・人員の増強が不可欠と判断する。
	実績	7,108.08	t (トン)	
	増加量	-1,299.70	t (トン)	
	目標対実績比率	0.85		
産業廃棄物の取扱量増加 ・既存顧客への新提案 ・新規顧客開拓 ・価格競争力の強化 ・情報収集の強化	基準年度	11.43	t (トン)	目標達成
	目標	12.00	t (トン)	許可区分が、収集運搬のみとなっており、積極的な新規顧客開拓は難しいので、既存顧客のニーズを汲み取り、リピーター率を高める努力をした。また、新規顧客には、知識、情報の提供をした結果、目標を達成できた。 特に11月の案件では、良いビジネスケースを習得できたように思える。今後、同様の案件に的を絞って資本投下し、積極的に受注することを検討しても良いと感じた。
	実績	12.13	t (トン)	
	増加量	0.13	t (トン)	
	目標対実績比率	1.01		

取り組み計画	達成状況		単位	評価(結果と今後の方向)
グリーン購入の推進 対象品目の調査、過去の実績、購入先など調査し、目標を定める 単位:品数・点数	基準年度	記録なし	品・点数	目標達成
	目標	本年を基準として今後設定	品・点数	評価:良い。グリーンマーク、エコマーク、省エネマーク等のリストにある物品やリサイクル品の購入を心がける雰囲気、社内に芽生えてきたことが評価できる。今後、具体的に行動に移すことでその評価を行ないたい。
	実績	5	品・点数	
	増加量		品・点数	
	目標対実績比率			

取り組み計画	達成状況		単位:回・本	評 価(結果と今後の方向)
地域貢献活動 ①清掃活動。 投棄された空き缶・ゴミ拾い。 実施回数と回収量	基準年度	記録なし	回 本	目標達成 清掃活動は1回しか行なえなかったが、実際に行動に移すことに意義があると思う。今後より積極的に活動を行なうことで、周辺美化で地域に貢献できるよう努力したい。
	目標	本年を基準として今後設定	回 本	
	実績	1 19	回 本	
	増加量		回 本	
	目標対実績比率			
②周辺住民の方々からの金属くず買い受け。 主要買受け品目:アルミ缶・金属製不用品	基準年度	記録なし	kg	目標達成 12月のアルミ缶の買取チラシを近隣に配布したことを機に、金属くずの買取が広がりをみせた。実際にお金に変わることによって資源の有用性を実感して頂くことができた。 今後より知識を広める活動を行なうことで、地域に貢献できるよう努力したい。
	目標	本年を基準として今後設定	kg	
	実績	1,745.7	kg	
	増加量		kg	
	目標対実績比率			
総括 取締役社長 兼 環境管理責任者 金田 大地 ・12項目中、達成が6項目、未達成が6項目となり、評価の判断が難しい結果となった。しかし、本年登録審査時よりも、達成項目が増えていることは、評価に値する。くわえて、CO2の排出量は、実績(基準年度)対実績(本年度)で、13.94%減、目標(本年度)対実績(本年度)では、13.07%減となり、CO2排出量は、全体総括として、好成績となった。基準年度と本年度を比べると弊社をとりまく経済状況がまったく異なり、利益を得るために長時間化した就業時間、産業廃棄物に近い品質の劣る商品をも買い取って選別を行なうなど薄利を求める状況にあり、また組織としてのかたちを整備していく過程で、追加された事務作業もあり、化石燃料以外の消費エネルギーの増加＝排出CO2の増加、選別後産業廃棄物の増加につながったことは、ある意味、致し方ないかとも思える。今後、社業を発展させていくのであれば、原単位での指標を用い、評価を行なう必要があるだろう。環境負荷低減の努力を継続し、1つでも達成項目が増えるよう努力していく所存である。				

□環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物の適正管理処理。(管理票、処理委託先、報告等)
廃棄物処理法(収集・運搬業務)	産業廃棄物の収集・運搬業務。(許可証の内容遵守、車両、管理票、排出事業者、処理委託先、報告等)
消防法	賃借社屋 火災報知機の設置(工場500㎡以上)第21条の4
フロム回収破壊法	事務所空調機
大阪府流入車規制	自動車NOx・PM法 適合車の使用。車検証 参照。
自動車から排出される窒素化	自動車NOx・PM法 適合車の使用。
自動車リサイクル法	営業用乗用車、トラックの廃車時
家電リサイクル法	テレビ、エアコン、冷蔵・冷凍庫、洗濯機の廃棄時

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

□その他の取り組みを紹介

①金属スクラップ中のダスト選別過程

仕入れた金属スクラップをよりリサイクル効率の良い金属資源へと生まれ変わらせるため、選別・分別を行います。

例1 被覆銅線



- ①仕入れた被覆銅線を剥線機に投入できる長さにカットします。
- ②剥線機に投入して、銅線と被覆(ビニール、ゴム、紙、麻布 等)を選別します。
- ③純粋な銅線となったものは、最終的に伸銅・銅箔、銅線、銅精錬メーカーへ原材料として納入。
残った被覆(ビニール、ゴム、紙、麻布 等)は、弊社発生の産業廃棄物となり、可燃物をRPF(固形燃料)に加工している産廃業者へ運搬、処分。
最終的に、熱エネルギーとして再利用されます。

例2 被覆付銅管(エアコン配管)



- ①仕入れた被覆付銅管を扱いやすいサイズに切断、カッターナイフで、被覆等を取り除く。
- ②選別後、金属スクラップである銅管、被覆銅線、黄銅口金は分別し、各所へ原材料として納入。
残った被覆(ビニール、ゴム、紙、麻布 等)は、弊社発生の産業廃棄物となり、可燃物をRPF(固形燃料)に加工している産廃業者へ運搬、処分。
最終的に、熱エネルギーとして再利用されます。

例3 鉄スクラップ(今回は、鑄鉄および鋼鉄製水道配管)



- ①仕入れた鉄スクラップに付着した製鋼に不必要なダスト(プラスチック、麻布、紙等)を取り除きます。
- ②製鋼メーカー検収規格に適合した鉄スクラップは、最終的に製鋼メーカーへ納入。
- ③残ったダストは、弊社発生の産業廃棄物となり、可燃物をRPF(固形燃料)に加工している産廃業者へ運搬、処分。最終的に、熱エネルギーとして再利用されます。



- ④不燃物及び塩化ビニールは、RPF(固形燃料)に適さないため、分別し、産業廃棄物(がれき類)として産廃業者へ運搬、処分。

②地域貢献活動・・・清掃活動

周辺地域美化のため、4月29日(昭和の日)に、清掃活動を行ないました。
弊社の業務と関連性のある空き缶を主に拾い集めました。



空き缶が、用水路付近に多数見受けられました。
金属缶(スチール、アルミ)に関しては、弊社が
金属スクラップとして、適正なりサイクルフロー
へ乗せました。

③事務用紙使用量削減の活動

6月の複合機入れ替えに伴い、受信したFAXデータを一旦ハードディスクに保存する仕組みを取り入れ、内容をPC端末で確認することで、プリントアウトする紙枚を削減。裏紙、両面印刷率が向上しました。



○が今回導入した外付けハードディスク(記憶媒体)です。

以上